

目次

特集

となり合う〈遠き〉アジア

シューキン演劇大学劇団の公演『イワーノフ』(沼野恭子)
 講演と朗読「エリーザ・ピアジーニーわたしの詩
 の作法について」(和田忠彦)
 岩崎力の仕事(松浦寿夫)
 総合文化研究所・国際日本学研究院 連続文化講演会(柴田勝二)
 言語文化学部「冬の芸術祭」(前田和泉)

2 巻頭言

6 ペルシア神秘主義説話文学の女性像

—アッターールの『神の書』より
 佐々木あや乃

17 心の叡智(II)

—フアム・コン・ティエンにとっての阮攸
 野平宗弘

43 百年前の日本への旅

—タゴールの『日本旅行者』
 丹羽京子

62 日タイの文学作品にみる山田長政

—『王国への道』と『オークヤー』との比較研究
 コースイット・ティップティエンボン

76 中国伝統地方劇の諸相

—京劇・崑曲・越劇…古典演劇の昔と今
 川島郁夫

83 インドの演劇

—サンスクリット劇とは
 水野善文

95 カンボジアの大衆芸能「バサック劇」

の変遷とその意義
 岡田知子

115 アルゼンチン作家と日本文化

ホセ・アミコラ / 訳 久野量一

126 砂漠の奇跡

—イーゴリ・サヴィツキーとウズベク・アヴァンギャルド
 前田和泉

144 ポル・ポトのカンボジアからフィデル・

カストロのキューバへ
 ウンサー・マロム / 編訳 岡田知子

[解説] 革命キューバのクロニカ
 久野量一

寄稿

158 「弱き心」としての自我

—『舞姫』と象徴的秩序
 柴田勝二

176 歴史の天使が現れる世界

—あるいは、ベンヤミンのメシアニズムにおけ
 る二つの時間構造について
 山口裕之

189 初期のカメラ・オブスクラの批判的歴史

—暗室、玩具、人口眼、写生装置？
 吉本秀之

210 エドガー・A・ポーとレトリックとしての

「アメリカン・ルネッサンス」
 加藤雄二

報告

226 Changing Landscape of Asian Studies: a view from

the US with emphasis on Southeast Asian Studies (青山亨)

世界文学・語圏横断ネットワーク第二回研究集会(和田忠彦)

「アヴァンギャルドの諸相02・03」(山口裕之)

重なる石と言葉の裏に—田村毅氏講演会

「ノートルダム・ド・パリ 聖母信仰と中世幻想」(博多かおる)

書評

244 フローリアン・イリエス著/山口裕之訳

『1913』
 点景のアヴァンギャルド

和田忠彦

247 アントニオ・タブッキ著/和田忠彦訳

『イザベルに ある曼荼羅』
 リスボンから幽玄の世界へ

久野量一

251 リュドミラ・ウリツカヤ著/沼野恭子訳

『子供時代』
 ここに在るもの

松浦寿夫

253 アンドレイ・タルコフスキー著/前田和泉訳

『ホフマニアーナ』
 言葉による映像世界

山口裕之

255 ボリス・アクーニン著/沼野恭子訳

『墮天使(アゼザル)殺人事件』
 偉大なる「すぎ間」産業

笹山啓

259 和田忠彦編

『イタリア文化 55のキーワード』
 古くて新しいイタリア

林和宏

262 沼野恭子編

『世界を食べよう! 東京外国語大学の世界料理』

八木久美子著

『慈悲深き神の食卓 イスラムを「食」からみる』

「食」から始める文化認識

佐々木あや乃

266 柴田勝二・加藤雄二編

『世界文学としての村上春樹』

多言語・多文化研究の担い手たちによる村上論

平原真紀

271 ヌー・ハーイ著/岡田知子訳

『萎れた花・心の花輪』
 郷愁のアンコール、その軋轢と葛藤

調邦行

-- 編集後記